



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく!」
～経営を極めていく企業家集団 会勢730名を達成しよう～

中同協 第48回 中小企業問題全国研究集会 in 兵庫 参加報告

日時：2月8・9日(木・金) 会場：神戸ポートピアホテル

第9分科会

人生見逃しの三振をするな

～経営問題・顧客ニーズ・社員の生きがい足もとにある!～

(株)ノーブルライフ 代表取締役
鳥取同友会 理事 障害者問題担当

賀本 裕則 氏

アドバイザー

中同協 経営労働委員長

林 哲也 氏

代表理事 松尾 慶一

とうとう一年後の長崎全研を迎えるにあたって、兵庫全研に参加し全てを学んで持ち帰ろうと参りましたが、結果として素晴らしいという言葉に尽きました。会場・分科会・懇親会・記念講演・震災復興シンポジウムと完璧な進行の中にも兵庫同友会の会員さんの誠意あふれるおもてなしには感服致しました。また、2000名を超える記録的な参加者数は圧巻でした。実行委員長さんのご苦勞はいかばかりかと思ひながら、大成功を収められて、その達成感もひとしおではと拝察致しました。この学びを次回に活かすべく、長崎同友会一丸となって全研の準備にかかります。長崎ならではのおもてなしにご期待ください。

さて、私は第9分科会を選択しました。

創業から12年で、高齢者の介護事業を成長発展させた手腕は、同友会に入会して6年目の経営指針書策定から実を結んできたと熱く報告されました。

現在は高齢者介護事業専門のコンサルティングも事



業化されていると言われるように、その話振りはコンサルタントのようでも有りました。現在5億の売り上げを10年後に50億にするためには、銀行との連携でM&Aによる規模の拡大を目指す中に、これまで築き上げてきた社員満足度、生きがいや働く環境づくりに積極的に取り組んできた結果、離職率2%という信じられない成果を出されていました。

特筆すべきは、社員さん達の為にフリーダイヤルで顧問弁護士に相談できる仕組み作りでした。上司や社長に相談できない事を何でも相談できる仕組みには驚かされました。

これを参考にして、長崎でも1社では難しいが会員企業が合同であれば実践できるのではと思い県下全域を網羅して行きたいと思いました。

それから懇親会のお料理は足りないとは言わせない

目次

中同協 第48回 中小企業問題全国研究集会 in 兵庫 参加報告	1
各界からの提言	5
2月例会報告	6
中同協 中小企業憲章・条例推進本部と政策委員会との合同会議 参加報告	13
ダイヤモンドクラブ 第2回例会 開催報告	14
What is 共同求人?	15
会員活躍	15

第11回 景況調査 結果報告	16
事務局企業訪問	18
入会・復会会員紹介	19
理事会議事録 抜粋	20
会員消息・会員数	21
4月例会・支部総会案内	22

ぞと言う姿勢が強く感じられました。そして、最後のシンポジウムでは、地域企業とは潰れない会社でなく

てはならず、それがビジョナリーカンパニーであるとコーディネーターが纏められました。

第3分科会

人口2万人・高齢化率36%の田舎で展開する「ファンタジーカンパニー」

～ピンチもチャンスも地域と共に～

(株)オーシスマップ 代表取締役会長
兵庫同友会会員

大林 賢一 氏

アドバイザー

関西学院大学大学院 経営戦略研究科 教授 佐竹 隆幸 氏

北松浦支部 井手 眞悟

中小企業問題全国研究集会には、初めて参加しました。参加の動機は、来年度長崎が開催地であるということからの参加であったわけですが開催規模の大きさに驚きました。会場、設備の充実ぶりです。また運営や内容においてもかなりのシミュレーションが行われたことと思いました。

まず、分科会は第三分科会に出席し、地域概要が北松浦と似ている事もあり非常にイメージが付きやすい報告でした。その中で「地域貢献は後から採算はついてくる」と報告があり身近に感じると共に社内においても、もう一度社長の役回りを見直す機会を与えてくれる報告でした

二日目は「地域に眠る物語を資源に変える！有馬温

泉老舗宿15代目の感動の賑わいづくりとは?!」と題して金井啓修氏による記念講演でした。

地域資源を生かし、震災からの復興と繁栄を自らの発想と価値で実践されており、自社の経営とまちづくりを両立されているまさに地域企業であると感じました。

震災復興シンポジウムは「その時経営者が命がけでやるべきこと」と題して被災された経営者がパネリストでお話され同友会型ビジョナリーカンパニーを目指し、会社の存在が社員を守り、地域を守ることが大切であることを学びました。

情報は大切で、そのためのプラットフォームが同友会であることなど、多くの学び気づきがありました。楽しく、学びの場を提供くださいました兵庫県同友会に感謝し報告いたします。



第4分科会

中小企業振興基本条例を活かした地域づくりと制定後の課題

～地域活性化と同友会の地域活動の事例～

富田屋(株) 代表取締役
北海道同友会 理事
くしろ支部別海地区会 会長

山口 寿 氏

アドバイザー

北海学園大学経済学部 准教授 大貝 健二 氏

諫早支部 山田 康成

諫早支部政策委員長として中小企業振興基本条例の早期制定を担っているのでこの分科会を選択しました。

人口1万五千人の北海道別海町では2007年に40名の会員で誕生した別海地区会が推進役となり、2009年に「別海町中小企業振興基本条例」を施行しました。

地元企業と行政からなる協議会を設置し、実態調査を実施して中小企業振興策を検討。別海町中小企業振興「行動指針」に沿って経営基盤化、人材育成策を実施しています。これだけのスピードで条例を制定し振興策を実施しているのは何なのか。

条例制定には同友会だけでなく町の商工会の協力が不可欠であったこと。同友会メンバー、行政のメンバー

とコーディネートした大貝氏とが中心となって熱い思いを共有し続けたこと。中小企業振興協議会は17もの具体的な提言をして行政はそれを受けて行動指針を策定して実践するという仕組みが出来ています。

大貝氏からの報告は課題として「なぜ、条例を制定しても、具体的な展開が進まないのか?」ということに関して様々な要因がありますが、将来のビジョン（活性化のイメージ）について当事者間で共有するために熱い思いを持ったリーダーが必要であるとのことでした。

同友会のメンバーが中心となり振興検討会議をけん引していくことが重要だと思いました。北海道同友会の守代表理事からも熱いエールを送っていただき熱いリーダーとなって諫早支部を盛り立てていこうと決意しました。



第5分科会

環境変化に生き抜く経営戦略

～連携を生かして新たな仕事を創造～

大日運輸(株) 代表取締役
大阪同友会 会員

石井 肇 氏

アドバイザー

立命館大学 経営学部経営学科 教授 田中 幹大 氏

諫早支部 後田 隆二

報告者の石井さんは、商社勤めを経てお父様が経営される大日運輸(株)に後継者として入社されるもその直後、バブル崩壊の煽りを受け倒産の危機に。

しかし、「これは、乗り越えるために自分に与えられた試練だ」、「自分は商社からの出向でこの会社に来てるんだ」と思うようにし、気持ちを切り替えることで冷静に物事を考えるようになります。

そして商社勤務時代に学んだ「機能を磨けば仕事が創れる」という言葉を思い出し、「自社の強みは何か」を考え、川上の建材メーカー(顧客)から川下のユーザー(顧客の顧客)までの間のすべての仕事を自社でやるという「物流のコンビニ」という発想を思いつかれたそうです。

その後、顧客の困りごとを解消しつつ、顧客の顧客であるユーザーからの苦情や無理難題をすべて引き受けて解決していくことで、両者にとって無くてはなら

ない存在の会社になったそうです。

また、同友会活動についても大変興味深い話を聞かせていただきました。

ある日、同友会の先輩から「人間はなぜ立つようになったのか?」と質問を受け、ご自身なりの考えを述べられた後、その先輩から理由はいろいろあるだろうが、一番の理由は「人間は、自分で立とうと思ったから立ったんだ」、それはすなわち「人は、他人からあれこれ指示されて嫌々動くより、自らの意志で楽しんで動く方がすごいことができるんだ。」という話を聞いて、それまでの自社での社員さんに対するご自身の行動を改め、同友会の三つの目的の内の一つである「よい会社をつくろう」の、「よい会社」とは?を考えられるようになったそうです。

因みに、石井さんの考える「よい会社」とは「社員全員が、毎日楽しく自らの意思で行動できる会社」だそうです。

最後に同友会活動での学びは、「例えるなら漢方薬と同じで、即効性はないが続けていくうちにじわじわ効いてくる」、「よい会社をつくろうと真剣に考えて学んでいくうちに、気付いたら他人から評価されるよい会社になっている」という話を伺って、同友会歴3年弱の自分は、最近になってようやくその「漢方薬」の存在を知り今まさに飲み始めたころではないだろうか、近い将来その効果が現れるのを期待して、これからも同友会での学びを続けていこうと思いました。

第6分科会

業種転換で価格決定権を持てる 企業づくりをめざす

～日本一の研究開発支援社への取り組み～

ニイガタ(株) 代表取締役
神奈川同友会 副代表理事

渡辺 学 氏

アドバイザー

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所
企画情報連携部連携広報課 主任研究員

伊東 圭昌 氏

長崎浦上支部 山口 善也

渡辺さんは26歳の時に家業である工業彫刻の4次下請けだった現在のニイガタに入社し価格競争に巻き込まれいつまでもたっても業績が改善しないなか隣接異業種への転換を決意し33歳の時、樹脂加工業へチャレンジされ知識も経験もないなかで少しずつ仕事を増やしていきその後も樹脂加工から筐体試作加工業へ。

その後は立体複雑造形分野(3次元)、オーダーメイド器具・治具製作へと業務を上げられ今後は総合研究開発支援業(測定や計測の環境整備の支援)に取り組んで行かれるそうです。

こうした分野へチャレンジするには専門分野に関する知識や経験が依頼されるお客様よりも必要となり、優秀な人材を採用し育成する事がお客様に必要とされ選ばれる関係づくりに必要であると話されていました。

同友会には44歳の時(2009年)に入会され直ぐに経営指針を成文化され経営指針というぶれない軸が出来ることで、社員の主体性の向上に結び付いたということでした。目標とされる「強くて良い会社になる」為に彫刻業から幅広い分野へ業種を上げられ、技術(独自商品・人材)ブランド力(安心・安全・信頼)を強化し価格決定権を持てるくらいにお客様と対等な関係を築きあげることが出来るようにチャレンジされている報告を聞く事が出来ました。

その後のグループディスカッションでは自社において価格決定権を持つこととはどのようなことでしょうか?というテーマで討論しました。その中で、価格競争が激化している業種や値崩れを防ぐために顧客数が減っても価格を変えない企業の方や他社にはない商品やサービスをおこなっているなど業種や各企業によって様々な対応をされていました。

まとめとして、価格決定権を持つためには自社の強みだけでなく顧客や時代のニーズなどをしっかり把握した商売を行わなければならないということになりました。

その後の懇親会では来年の長崎全研に向けてのPRもでき、次の日の記念講演では有馬温泉で旅館(御所坊)を運営されている金井氏の講演をお聞きしました。阪神淡路大震災などの多くのピンチをチャンスに変えられた発想力の高さ、周りの人を巻き込み地域一体となって有馬温泉を盛り上げる手法などをお聞きする事ができました。

第7分科会

つぎはぎだらけの急成長

～失敗、成長、また失敗。従業員ゼロからの労働環境づくり～

(株) デジアラホールディングス 代表取締役
兵庫同友会 副代表理事

有本 哲也 氏

大村支部 首藤 洋一

会社の年表を使い起業時から社員100名超になるまで会社のステージに合わせて、快適な労働環境を目指しますが経営者と社員との間には、常に想いのギャップがあり、経営者の目指す労働環境とは何か、何のために労働環境を改善するのかについての内容でした。

グループ討論では、「社員さんが普通に働ける環境とは、どのようなものか」がテーマでした。

テーブル内の意見では、経営者の普通と社員の普通とは、元々考え方が違う、労働環境をよくすると利益が減少し逆に生活悪化するのでは、という意見もありました。

会社の規模・ステージに沿った経営計画、また労働環境が社員や外部の声に耳を貸しそれが、正しいのか悪いのかを社員と共有すること、普通の人が普通に働いて普通の給料をもらえるのが普通ではないかとの結

論に達しました。

今回の報告では会社のステージが変わるとすべき事が変わる、経営者は戦略を立て変化、変革をしないと労働環境は作れないと感じました。

記念講演では地域資源を生かした震災からの繁栄と題しての報告でした。自社の経営だけでなく、地域の発展の為に町づくりを誰も考えつかないアイデアで繁栄させ、「歴史と文化は守るだけではダメ」、「時代に合わせた革新がなければ続かない」といった固定観念にとらわれない金井氏の報告に共感しました。

震災シンポジウムの内容は、東北と阪神の震災の経験から経営者が命がけでやるべき事でした。それぞれの時代、社会環境、条件の違いはありますが、経営者がやらなければならないのは、まずは会社を守ること、社員を守る事であり、震災が起こっても安心して働ける環境づくりをしなくてはなりません。

その次は地域貢献であり、強い会社にし、よい会社にし、地域に望まれなくてはならない会社にしていく必要があると感じました。

兵庫同友会の方のおもてなし、準備、グループ長のリード、まとめ、どれも素晴らしかったです。感謝します。

第10分科会

「感謝」と「承認」の風土創りと、 新しい働き方へのチャレンジ

～採用に王道なし、三位一体の愚直な経営で道は開ける～

(株) 現場サポート 代表取締役
鹿児島同友会 副代表理事兼経営指針委員長

福留 進一 氏

アドバイザー

県立広島大学 経営情報学部 経営学科 准教授

足立 洋 氏

島原支部 山田 崇生

福留さんの会社はITの会社です。今では外部評価も得て、地域では若者が集まる会社に近づいたと紹介がありました。人を集めるために、まず採用にお金をかけるようになったそうです。初めはハローワーク、それから同友会共同求人、そしてリクナビへと変わられました。今では年間支出200万円とのことでした。

それから会社説明会などで人が集まらない時には積極的に声をかけて椅子に座っていただいたり、話だけでもと集められたりしているそうです。

そしておもしろいのが一次面接。まず社長がされるとのことでした。会社への思い、経営指針、会社の方向性など一番わかっているのは社長です。社長が直接訴えることが新卒者に伝わるのだと思います。

それから背伸びをせずありのままを伝える。だから入社してから「こんなはずではなかった」というギャップがないのだと思います。

福留さんのところはここ3年以内の離職率が0%と

のことでした。

基本的な会社風土として、「自立主義」、「社員は仲間」とあり、自立主義へのアプローチは社員さんとの関係確立（接点が多い）、役員のやるべきことや売上などの情報を公開（クラウドを活用）、双方向のコミュニケーション（チャットなど）、そして権限移譲をする、とのことでした。

接点は飲み会や社長の勉強会等があり、その中身がおもしろく、飲み会は層別で、基本は2時間で終了、社長は1時間で帰宅、2次会への強要禁止、会費の補助あり、年間でスケジュールが決まっているから社員は全く嫌がらないとのことでした。

あと勉強会は業務になるそうで20回参加すると福利厚生で1万円もらえるとのことでした。それからおすすめの制度としてリフレッシュ休暇を挙げられまして、5日連続で取り、取らない方はボーナス減給、取ったらわかるらしいですが、自分がいなくても会社は大丈夫とわかると社員はもっと頑張るようになるのだそうです。

「社員は仲間」に関してはライバルの大企業に負けそうな時、みんなでチャットで励まし合ったり、「ありがとう」の感謝の気持ちを社長はもちろんのこと、社員さんも言葉に出して伝えるとのことでした。

本当にたくさんの工夫があり、中には当たり前のようなことありますが、改めて感心することが多く、会社のみんなで一体となって仕事を進めていることがわかるお話でした。このことを自社でもかならず実践し、盛り上げていきたいと感じた分科会でした。

※一部抜粋。後半は次月掲載します。全参加者の参加報告はe.doyu掲示板にアップしています。

「地域とともにある大学として」

学校法人 鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 学長 佐藤 快信



プロフィール

1959年神奈川県横須賀市に生まれる。東京農工大学農学部卒、同大学大学院 連合農学研究科(博士課程後期)修了、農学博士(東京農工大学)。島しょ部を中心に地域資源と住民参加型地域づくりとの関係を調査研究し、地域住民と共に地域づくりを実践している。1991年長崎ウエスレヤン短期大学専任講師、助教授、教授、2002年長崎ウエスレヤン大学教授を経て、2014年4月より学長。その間、長崎ウエスレヤン大学現代社会学部長、地域総合研究所所長、名古屋大学大学院国際開発研究科客員研究員、アジア経済研究所客員研究員、日本島嶼学会理事、樹恩ネットワーク(NPO)理事、長崎県森林審議会会長、県社会教育委員会副委員長などを歴任。長崎同友会 諫早支部会員。

長崎ウエスレヤン大学は、「小粒でもピリッとした個性を持つ島唐辛子みたいな大学」と言われることがあります。県央の諫早市にある収容定員580人の小規模大学ですが、「共生社会の実現」を教育理念のもと、外国語学科、経済政策学科、社会福祉学科の3学科で構成されています。母体の鎮西学院は創立137年の歴史を持つミッションスクールで、大学名の「ウエスレヤン」とは、メソジスト派プロテスタント教会の始祖ジョン・ウエスレーに由来します。日本では聞きなれない名称ですが、「ウエスレヤン」を冠する大学はコネチカットやオハイオなどの北米の名門大学を始め、世界中にあります。母体である鎮西学院はテネシー・ウエスレヤン大学出身の宣教師C・S ロング博士によって1881年に創立され、青山学院、明治学院とならぶ歴史を持ちます。長崎ウエスレヤン大学は、2002年に前身の短期大学を改組して開設されました。短期大学の頃から、北米・カナダはもちろん、中国・韓国・タイ・フィリピンとの交流が盛んで、近年ではマレーシアやベトナム、ネパール、インドなどアジア諸国からも留学生を積極的に受け入れています。

地方を取り巻く社会環境は厳しいものがあり、そこに位置する本学も例外ではありません。「人口減少・少子高齢化する地方で、『なくてはならない大学』として地元で認識してもらわなければ、未来はない」と考えています。企業経営者から「欲しい」と言われる人材を育成するため、特色あるキャリア教育を実施しています。1年から3年までの必修科目「コミュニティサービスラーニング」では、高齢者・子育て支援から、商店街活性化、地場産品を使った商品開発、インバウンド観光まで、学生・教職員が共に地域活性化に取り組んでいます。「ノーと言える人間は当たり前。うちの大学は、あらゆる課題に「ハイ」と「イエス」で答え、ポジティブに立ち向かえる人財を育てたい」と私を含

めた教職員が思うことです。産学官連携にも積極的に取り組んでおり、地元の諫早市はもちろん、雲仙温泉観光協会や旅館ホテル組合、長崎県中小企業家同友会など、包括的まちづくり協定を結んでいます。

特に、長崎県中小企業家同友会 諫早支部とは、連携協定前の2、3年前から関わりを持ち、本学の目指す教育へのご理解のもと、さらに発展させるため連携協定を2014年に締結し、同時に学長の私も長崎県中小企業家同友会に入会させていただきました。所属する諫早支部内に産学連携委員会を設置していただき、毎月委員会を本学でおこなっています。共同で商品開発セミナーを年2回開催しています。また、保護者対象の講演会や学生対象のキャリア教育科目の講師をお願いするなどご協力をいただいています。特に、9月例会は移動例会として本学の学生食堂を会場に開催し、例会には学生だけでなく教職員も参加し学んでいます。

毎月の例会に参加していくなかで、私自身も気づかされることがあります。経営者の方々は、絶えず学び、経営計画を策定し、社員の合意形成を図るというたゆまぬ努力をされています。そして、自社の根幹に社会的意義を掲げ経営されています。そうした様を直に見て、聞いて、感じたなかで「大学の顧客は(地域)社会であり、商品は学生である」ことを再認識することができました。また、ビジョンを持ち、企業全体で共有することの大切さ、またそれをリードしていく経営者の役割について学びました。学長という立場は教学の最高責任者でもあります。経営面でもその責務を果たすことが求められます。その意味からも、入会して良かったと思っています。

これからも、地域からのニーズに応えられるよう邁進してまいります。会員の皆様には、これからもご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

長崎浦上支部 例会報告

日 時	2月24日(土) 18:00～20:30
会 場	長崎新聞文化ホール アストピア
テ ー マ	我社の「人が輝く会社づくり」
報 告 者	(株)オオクラ 代表取締役 辻村 栄蔵 会員



今回は、副代表理事としてもご活躍の辻村さんに、生い立ちと会社が今に至るまでを赤裸々にご報告いただきました。

アイカ工業(株)(建築内装材製造メーカー)の代理店として、長崎県と佐賀県の一部を業務エリアに、新しい居住空間のクリエイトに貢献されて43年。

水の新技术事業からの撤退に関してや銀行との関係維持に関する思いをはじめ、同友会では仲間との交流はもちろん、社員さん方を信じることの大切さを学んだということなどをお話いただきました。

参加者は31名と残念ながら少なめでしたが、4名のゲストに参加していただきました。



参加された方からは、「社員を信じることの大切さを学んだ」、「辻村さんの人柄がよく出ていて感動した」などの感想をいただきました。

例会後の懇親交流会では、同友会の会員同士だからこそその相談などもあり、楽しくも学び多き時間とすることができました。

辻村さん、そしてまた、参加された皆さん、たいへんありがとうございました。

(文責 飛田 精一)

長崎出島支部 例会報告

日 時	2月22日(木) 18:00～20:30
会 場	サンプリエール
テ ー マ	タナケンが語る出口の話!! ～保険は入り方よりもらい方が大事!!～
報 告 者	メットライフ生命(株) 長崎エイジェンシー オフィスコンサルタント 相談役 田中 健一 会員



20代で結婚し二人のお子さんに恵まれるものの、奥様の統合失調症を機に父子家庭を決断!約3年に及ぶ調停の末、離婚成立。PTA会長や子供たちと関わる様々な地域の行事に積極的に参加し父子家庭を続けるなか、今の素敵な奥様と出会い2度目の結婚、さら



に一人のお子さんに恵まれ、現在3児の父でいらっしゃる田中さん。

その父子家庭時代に身内の胆管がんで一緒に闘病・そして帰らぬ人に。闘病生活での本人や家族の大変さを目の当たりにするなか、出会った保険屋さんの親身な対応と専門的なアドバイスに保険の必要性を



感じ心を打たれ、お世話になった先輩からの熱心なお誘いを受けたことをきっかけに保険の仕事を始めることを決意。

自分の人生経験と学んだ保険の知識をもとに、出会う方皆さんの今後の人生をよりよく快適・安心にそして夢を抱き幸せな老後を送っていただくためのアドバイザーとして少しでもお役に立てればという思いで、



田中さんらしく気さくでユーモアに溢れた報告をしていただきました。

グループディスカッションでは「もし、あなたの余命が1年ならば…」ととても深い内容でしたが、それぞれに今を生きるという事のありがたさや、いつ自分にも訪れるかもしれない人生の終点を考え、今できる事・しないといけない事を見つめる良い機会になったようで素晴らしい例会となりました。

(文責 山口 絵理)

大村支部 例会報告

日 時	2月15日(木) 18:30～21:15
会 場	長崎インターナショナルホテル にんじん棟
テ ー マ	経営指針作りで学んだこと
報 告 者	イチセライス(株) 代表取締役 市瀬 恵理 会員



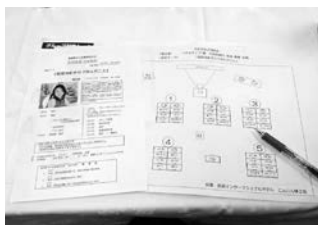
今回は、お米の卸業と玄米を使用したメニューで美容と健康をご提供できる(ひみこカフェ)も経営、玄米から作る女性ならではのアイデアでオリジナル商品を手がける市瀬さんのお話です。

短大卒業後バブル絶頂期にアパレル販売や輸入車ディーラーにエステティシャンと色んな職場を経験され、家業の米卸業に腰掛気分で入社するも父親である社長の体調不良をきっかけに社長に就任されますが、日本の米離れや東日本大震災の影響による玄米の暴落により売上が低下、最愛の父親の死により自分まで体調を崩し入院と不安な日々を過ごされました。

その後、知人の方々からのアドバイスや沢山の方々



に手を差し伸べていただき、そのおかげで自分の心も前向きになり改めて会社の経営を考えられ、その後平戸の生産者の方との出会いがあり、平戸の棚田米を地元スーパー店とのコラボ商品として販売され主力商品になるまでの報告でした。



実際、会場で平戸の棚田米のおにぎりを試食させていただきましたが、驚くほど甘く美味しかったです。



入会して1年足らずで経営理念作りに報告者までと会場の皆様も驚いていました。お米を通じていろんな方との出会いがあり日本の食文化を守りたいという気持ちが感じられる例会でした。

(文責 比良 哲也)

諫早支部 例会報告

日 時	2月21日(水) 18:30 ~ 21:00
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	人や企業や地域の魅力を 発掘して生き返らせる O-biz とは！
報 告 者	大村市産業支援センター O-biz センター長 若杉 誠司 氏



若杉氏は、大村市の産業支援センターO-bizのセンター長として今や月間70件もの相談を受けていらっしゃるそうです。O-bizとはビジネス課題を解決したい事業者を支援する相談無料の公的相談所であるため、お金をかけないサポートを提供していただけます。今回は、O-biz支援事例として、第三者の視点や発想の転換によって、売上アップにつながった事例をご紹介します。

O-bizは、その相談者を大村市内の企業に限定しておらず、また、どのような業種の方でも利用できる

ため、悩みを抱えている方には広く門戸が開かれています。一市町村の枠内にとらわれず、相談を受ける業種を限定しないO-bizは、若杉氏が地域活性化に必要なだと思っていられる、地域にとらわれすぎない大きな視座と、外部の者であったり、常識の枠を外れた人材であるといったことを体現されていると思いました。

またO-bizの受付は、業務時間内の受付だけにとどまらず、SNS等を利用して様々なプロジェクトに夜遅くまで携わられているそうです。「そのバイタリティーや、アイデアの源泉はご自身のアメリカ放浪の経歴に基づいたものですか？」といった質問には、「情報収集の労力を惜しまず日々の勉強に裏打ちされたものです」とお答えになっていて、感服いたしました。

佐世保市や島原市などの事業者も相談に来られるとのことですので、会員のみなさんも是非利用されてみてはどうでしょうか。

(文責 田中 幸実)



島原支部 例会報告

日 時	2月21日(水) 19:00～21:15
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	これからの地方について感じる事
報 告 者	(有)上田自動車 代表取締役会長 上田 五月男 会員



今回の例会では、「ディスカッションの時間を1時間以上取り、テーマについて深く考えを掘り下げて欲しい」という上田さんの強い希望がありました。

報告内容は問題定義をする形でなされました。現在島原半島が直面している「人口減少」に関するデー

タを中心に説明されました。さらに我々企業は今から考えて行動をしなければ、確実に売上・収益の減少が起こり、給与も年々減って行くことが当たり前の時代とも話されました。

一つの方向性として、上田さんの自動車業界での例を挙げられて「合併」という策のメリット・デメリットを分かりやすく説明されました。「合併という策はあくまで1つの例であるが、具体的な行動を考える為にグループディスカッションで深い議論をして掘り下げていきましょう。」という事で報告されました。

グループディスカッションではテーマに沿っての議論を長時間深める事が出来ました。

各グループ共通して、「人口減少について分かっているけれども、具体的には行動していなかったこと。」「異業種の話聞くことで自社の強み、弱みを客観的に見る事ができたこと。」「社内・社外ともに再度何ができるかを見直し、具体的に動いて行くようにしたいと



思ったこと。」などを意見されるグループが多かったです。

また、年々需要がダウンする業界が多いなか、1次産業（農業）については世界人口の増加を背景に見通しが立てられる業界ではないかという意見もありました。

最後に上田さんが、「5年後の将来がなかなか見通せない時代だからこそ、自社を客観的に分析し、時代を常に考え、行動を起こしていかなければ生き残れない。」と力強くお話しされて終了となりました。

地方の人口減少という全ての会社が避ける事ができない問題について、自社のみで漠然と捉えていましたが、本日の機会を得て異業種の方々とも考えを深める事ができ、大変勉強になりました。

(文責 織田 哲平)

佐世保支部 例会報告

日 時	2月16日(金) 18:30～21:00
会 場	アルカスSASEBO 3F 大会議室
テ ー マ	新聞屋、復活からの挑戦
報 告 者	(株)PMC 代表取締役 佐藤 安司 会員

佐藤さんと「新聞」との出会いは、浪人生の時でした。新聞奨学生として予備校に通い、1年後に志望大学に見事合格し、実家の家計状況を斟酌し、再び新聞奨学生として働きながら学生生活を送りました。

一昔前の新聞奨学生の仕事は現在の社員並みにハー



ドで、奨学生の同期は次々に脱落し、大学も辞めてしまったそうですが、佐藤さんは苦しいどころか、逆に



楽しかったそうです。逆境と思われる場所でも、楽しみを見出すことができるのは才能だと思います。

経営者として最初のチャレンジで、開業3年目にはどんぶり勘定による放漫経営で、一度廃業された苦い経験がありますが、経営者から一兵卒に戻るも、借金返済を完遂できた事は、逆境に強い性格である事を裏付ける出来事でした。

別の販売店で一兵卒として働く中で、誠実でバイタリティ溢れる姿勢を評価され、四か所の販売店の店長を任せられました。

この時、俗に言うダメ組織の販売店に奇跡を起こしました。いつ来て、いつ帰っているのかも分からない社員、販売店の空気は最悪の状態でした。

そこで佐藤さんが実践したのは「挨拶」でした。最初は冷たい対応だった社員も1年を経ないうちに向こうから声を掛けてくるようになっていました。また「朝礼」によるコミュニケーションを図ったことで、店舗内の風通しが良くなり、いろいろな意見やアイデアが出てきました。

佐藤さん曰く、生まれ変わった店舗は走攻守そろったチームだったそうです。社風を改善した佐藤さんが店長を務める店舗は、朝日新聞東京本社管轄の販売店の中で、年間最優秀賞を取得しました。佐藤さんが店長業務に邁進できたことは、奥様の協力無しにはなし得なかったことと思われます。



店長となって12年目、朝日新聞本社から、佐世保で起業の話が舞込み、新しい環境で再出発に臨みました。

再出発当初は順調な売上でしたが、インターネットの発達とともに、新聞の契約件数は減ってきました。危機感を感じ、社員を集め会議を重ねるうちに「サポート業務」の話が自社の強みを生かす方向性とマッチしていたので、早速実行に移しました。電球の交換、家具の移動、庭の草刈り、買い物の代理等々。

そこで、社員から「新聞販売店で働きながら、初めて『ありがとう』と言われました」という思わぬ言葉が。新聞はインテリが作ってヤクザが売ると言われたのは一昔以上前の事でしょうが、この時の社員の言葉は、社員以上に佐藤さん自身が嬉しかったのではないのでしょうか。サポート業務を行う中で、社員がこれまで発揮できなかった得意分野を表に出せたことも、やりがい（社員満足度）Upに寄与していると考えられます。

人材不足で困っている会社が多い中、(株)PMCでは、社員の紹介により、人材不足には未だ至っていないとの事でした。社員やパートのみならず、配達業務のみのアルバイトの方の生活まで心配する、人を大切にする経営の賜物と言えるでしょう。数か月後に開催予定の経営計画書報告会が楽しみです。

(文責 府川 正樹)

北松浦支部 例会報告

日 時	2月21日(水) 18:30～20:30
会 場	サンパーク吉井
テ マ	次世代経営につなぐ ～担い手の目線から～
報 告 者	(有)坂野水産 坂野 弘樹 会員

坂野さんは、水産高校を卒業後、ミュージシャンを目指し福岡へ、その後様々な苦難に直面し、志半ばでミュージシャンの夢を諦め、実家へ帰郷。

帰郷後は、実家の家業である(有)坂野水産で働き、



地域では平戸レゲエ協会に入会され、大活躍されてい



ます。

坂野水産は現在、坂野さんを含め3兄弟、お父様、お母様、社員・パートの方、計10名の人員で経営されています。経営理念は、「買う心、同じ心で売る心」。坂野さんが坂野水産で働き始めて10年という節目に、これまで仕事で経験してきたことを同友会で報告されました。

養殖の仕事は「小売安定型」「大売変動型」の大きく二つに分けられます。坂野水産では、養殖事業で①鮮魚、②活魚、③加工の3つの業務を柱に経営しています。しかし、平戸の観光客の減少により年々売り上げが減少していました。そんな中、坂野さんがたまたま参加した東京フードショーで、魚の餌にフルーツを混ぜるヒントを得て、地元平戸のみかん農家を訪ね廃棄されていた「夏香みかん」を餌に混入し、養殖していたブリに与えたところ、ブリの品質が向上、坂野水産の主力ブランド「夏香ぶり」が誕生しました。夏香ぶりの評判は口コミで広がり、鮮魚の売り上げを大幅



に向上させました。

また、坂野さんは夏香ぶりを一時的ブームで終わらせないために、試食会等のイベントを積極的に企画し、さらにイベントの宣伝にSNSを活用して情報を拡散しています。

<感想>

坂野さんらしい、ユーモアにあふれた報告で、非常に楽しい報告でした。

また、坂野さんの夏香ぶりを考え出した商品企画力・ブランド確立力、夏香ぶりを世間の人に認知させ、SNSを活用した新たな宣伝力に会員一同非常に驚いていました。

今後、坂野さんが夏香ぶりに続く新たな商品を開発し、もっともっと坂野水産が成長していくことを会員一同確信した例会でした。

(文責 吉田 大)

五島支部 例会報告

日 時	2月16日(金) 18:30～21:00
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	福祉から農業へ ～地域のために親父の遺志を継いで。～
報 告 者	(有)ファームランド五島 代表取締役 山下 勝志 会員



今月は初めて報告にチャレンジする山下さんの報告です。報告に至るまでに亡き父の日記を振り返ったり、母に話しを聞いたり、決算書を読み返したりと普段しないようなことを、時間を作ってはしていたそうです。

報告はというと、学校卒業後、佐賀の高齢者施設で資格を取りながら介護の世界で楽しく仕事をしていたそうなのですが、強引な父親の行動で突然帰島するこ



とになります。

帰島後もケアマネージャーの資格を取るために転職までして介護の仕事をするのですが、父親の癌が見つかり、一度は治癒できたかと思われましたが再発。そんな中、妻からの言葉「職場の主任という仕事はあなたの代わりがいると思うけど、お父さんの仕事の代わりはあなたしかいないんじゃないの？」この言葉がきっかけで転職「事業承継」へと進むことになったそうです。そう考え現在の会社に入ってから父親と一緒に働くことができたのは4ヶ月、あと一年早く決断していればという思いも当時はあったそうなのですが、



なんとか今は仕事もできるようになり、コイン精米機整備、周りの方々から委託を受けての農作業、そして自前の畑・水田「ミルキー米」を栽培管理しているそうです。

今後は、父親の愛した地元の原風景を残せるよう、周りの農家さんも含め皆が潤って生活していける農業の仕組み作りに取り組んでいかれるそうです。今後の山下さんの活躍に注目です。

(文責 勝本 政裕)

青年経営者会 例会報告

日 時	2月15日(木) 19:00～21:00
会 場	minato
テ ー マ	私の履歴書
報 告 者	社会保険労務士 出島労務管理事務所 西浦 友也 会員(長崎浦上支部)



現在、時津町で事業をしておられる西浦さんですが、現在に至るまでにはいろいろな経験をされてこられました。

大学を卒業後、某金融機関に就職され、営業職を頑張られていたなか、ある社会保険労務士さんとの出会いで社会保険労務士を目指すことになったそうです。金融機関を退職し、社会保険労務士事務所に転職し、



実務をこなしながら資格試験に挑み続け、4年後に合格したそうです。

資格試験合格をきっかけに独立しますが、独立当時は社労士の知名度が低く、営業をしても門前払いを受

け続ける日々だったそうです。収入がなくアルバイトをして生計を立てる日々を送り、もう社労士を辞めようかと悩んでいたなか、仕事の依頼が舞い込んできて、初めての顧客ができました。

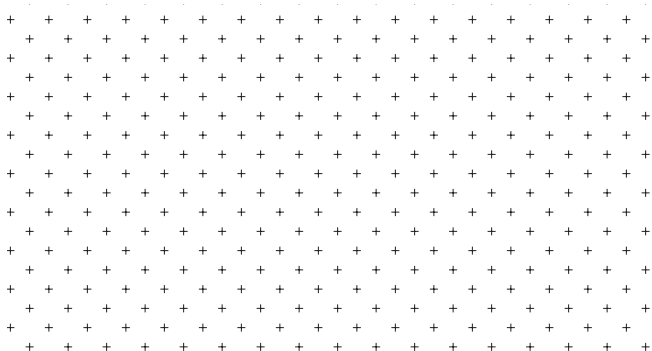
それをきっかけにアルバイトを辞め、本業に本腰を入れることを決意します。すると、顧客の方々からの紹介で徐々に仕事が増え、現在に至っているそうです。

振り返ってみると、その当時でしかできなかった苦勞で、開業してから半年間が本当に辛かったとおっしゃっていました。

現在では仕事も順調で、忙しい日々を送られていますが、自分でできる仕事量が限界にきており、会社を大きくするか現状維持するかで悩まれているそうです。それでも、自分の目が届く範囲でサービスを提供

していきたいという想いのなか、今後も事業に邁進していききたいという西浦さんの報告は、今後の青経会員にとっても実のある例会となりました。

(文責 古川 裕也)



中同協 中小企業憲章・条例推進本部と政策委員会との合同会議 参加報告

開催日：2月21・22日(水・木) 会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

今回の合同会議(1日目)の論点は以下の6つでした。

- 1) 「中小企業の日」を求める運動の今後の取り組み方について
- 2) 2018年の「中小企業憲章推進月間」、キックオフ集会の企画について
- 3) 「中小企業の見地から展望する日本経済ビジョン」について
- 4) 憲法についての学習等の取り組みについて
- 5) 第50回定時総会・関連分科会について
- 6) 第50回定時総会議案の関連部分について

上記をそれぞれ提起いただき全体の意見交換、その後、憲章・条例推進運動の今後の取り組み方や中同協5万名達成に向けて憲章・条例推進本部あるいは政策委員としてどのように取り組むかというテーマでグループディスカッションを行いました。

2日目は2019年度の国の政策に対する中小企業家の要望・展望、税制、金融問題など多岐にわたる報告があり、全体の意見交換を行いました。

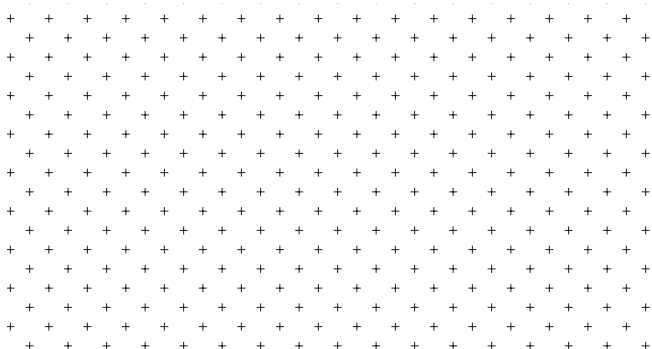
2回ぶりの委員会に参加させていただき各地同友会の現状や長崎の運動の比較、立ち位置を確認させていただきました。政策委員会の議論は条例や金融、税制など経営環境に間接・直接的に影響する分野です。長崎も含めて各地同友会、政策委員会の活動の周知、拡大が課題であるように思います。

長崎はこの中同協の会議を受け、来期から新しい委員長のもと、条例推進運動、産業支援センターの設立、行政への提言などさらに運動を加速していくことを確認しました。難しいというイメージが強ければ強いほ



ど、会員や地域を巻き込み大きなうねりとなる運動が展開できればその到達感は大いなものになるのではないかと思います。長崎には現状、県、大村市、松浦市、平戸市、雲仙市に条例ができています。各地の現状を共有しながら会員、地域の発展のためにまた学習と研鑽を続けていきます。

(文責 事務局 峰 圭太)



ダイヤモンドクラブ 第2回例会 開催報告

開催日時：1月31日(水) 18:30 会場：炉談



ダイヤモンドクラブは、会暦20年以上の会員・代表理事経験者・現役代表理事で構成されており、現在の会勢はなんと59名です。

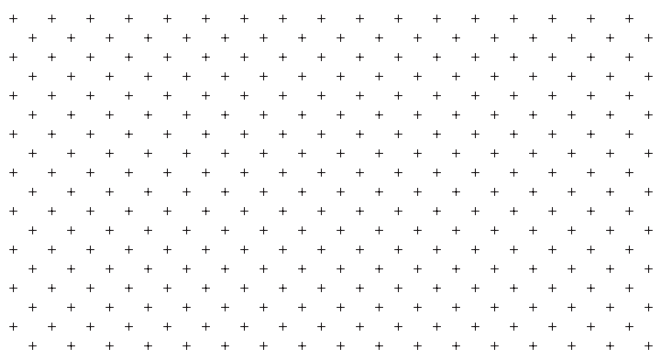
今回は、特別ゲストとして、仲間づくり委員会から西山委員長・庄司副委員長が揃って参加され、ダイヤモンドクラブの皆さんに、期末に向けての強力な仲間づくりの要請がありました。

続いて、金子会長から経営フォーラムに参加できなかった皆さんへの「ダイヤモンドクラブ会員章」の贈呈が厳かに行われました。

懇親会に入り、今回も品川さんの名(迷?)司会のもと、仲間づくり並びに一年後に迫った長崎全研成功に向け、全員の決意表明がなされ、金子会長からの

「我々はOBではない!現役だ!例会に出席し学び合おう!」という熱いメッセージで締め括られました。

(文責 事務局 山田 幸司)



V・ファーレン長崎



応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員(長崎出島支部)

広告募集

<4cm x 9cm>

複数月 割引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
	3ヶ月	6,000→5,000

What is 共同求人？

第1回

「最大の目的は、共同求人にあらず」



皆さん、こんにちは。共同求人委員会準備委員長の橋口久です。いよいよ2018年度から共同求人委員会が正式に発足します。会員の皆さんにとって耳慣れない委員会ですし、共同求人に対する誤解も多いことから、今月よりコラムを毎月連載することになりました。

さて、皆さんの会社は、「社員に選ばれる会社」ですか？「社員に支持される会社」ですか？

今月のタイトルにあるように、**共同求人は求人**が最大の目的ではありません。共同求人の最大の目的は、以下の3点です。

- 1 企業づくり
- 2 人づくり
- 3 経営環境づくり

何とも同友会らしいですね。これら3つの目的が満たされていくことで、職場で夢や目標、やり

がいを持つ社員が生まれ、会社は「社員から選ばれる企業」へと成長していきます。

「選ばれる企業」となるためには、経営理念の浸透や、経営指針の策定・経営計画発表会の開催、最新の法令に則った就業規則の整備、社員共育制度の充実、ESの向上など、労使間にグレーゾーンのない清々しい経営体質の確立、つまり同友会が推奨する王道の経営実践が最短距離です。

当委員会では、2020年に長崎同友会独自の合同企業説明会（合説）を開催予定ですが、合説に参加できる会員は、先述にある経営理念、経営計画書、発表会、就業規則、社員共育、ES向上など「社員に選ばれる企業」の基礎ができている**会員企業限定となります**。少々乱暴な仕組みとお感じになるかもしれません。しかし、全国の同友会では、「社員に選ばれる企業」としての基礎固めが不十分な企業が、求人活動することの危うさを指摘しています。

「社員に選ばれる企業」となることで、初めて「求職者に選ばれる企業」となり、求職者の将来に責任を持った求人活動ができるようになります。

「人を生かす経営」を実践できる中小企業経営者となるための成長機会として、ぜひ、共同求人の委員会活動にご協力をお願いします。

来月のコラムから、具体的な共同求人の活動を深掘りしていきます。

会員活躍

長崎新聞 2月27日 諫早支部 佐藤 快信 会員

長崎ウエスレヤン大（諫早市）と大村市は26日、地域社会の発展と人材育成に関する包括連携協定を結んだ。同大は大村市内に外国人日本語学校の開設を決めており、県内企業への人材供給も目指すという。

同大によると、本町の中心市街地複合ビル（旧浜屋ビル）6階に開設する外国人日本語学校には、インドとネパールから最大120人の留学生を受け入れる予定。来年4月から約80人規模で日本語教育プログラムをスタートさせる。

市役所であった調印式で、園田裕史市長は「市民が外国人と触れ合うことで文化交流が生まれる。空港を活用し、さまざまな展開に広げたい」とあいさつ。

同大の佐藤快信学長は「留学生が経営学修士（MBA）に近いものを取得できるようにしたい」と語り、「将来的に工業団地への人材供給につながれば」と述べた。（左海力也）

国際交流、人材育成で協定

長崎ウエスレヤン大と大村市



包括連携協定書を締結した園田市長と佐藤学長
＝大村市役所

第11回 景況調査 結果報告

長崎同友会では四半期に一度、独自の景況調査を行っています。今回670名を対象に第11回目を実施し、161名から回答をいただきました（回答率24.03%）。下記10月～12月期の簡易分析結果をご報告します。

業種、本社所在地、年商に関しては前回同様の結果が出ています。

2017年10月～12月期においては売上、経常利益、業況判断すべてにおいて前回よりも好転傾向となりました。

《売上高割合におけるD I 値》

直近3ヵ月（2017年7月～9月期）比較…12.5、
昨年同時期（2016年10月～12月期）比較…10、
次期見通し…10

《経常利益割合におけるD I 値》

直前3ヵ月比較…5.6、
昨年同時期比較…2.5、
次期見通し…4.4

《業況判断》

直近3ヵ月比較…0.6

昨年同時期比較…1.9、

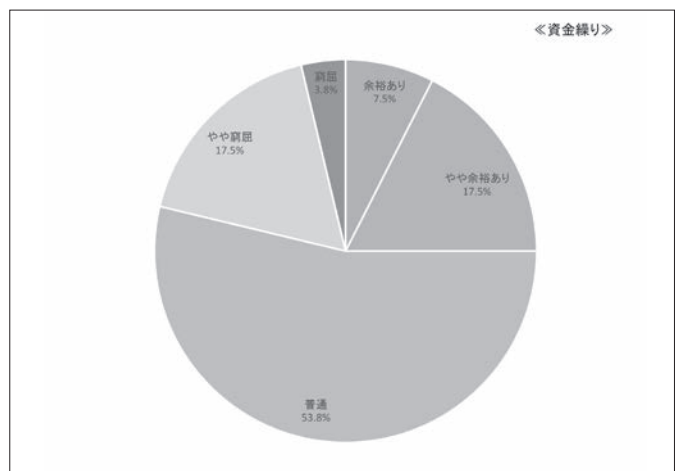
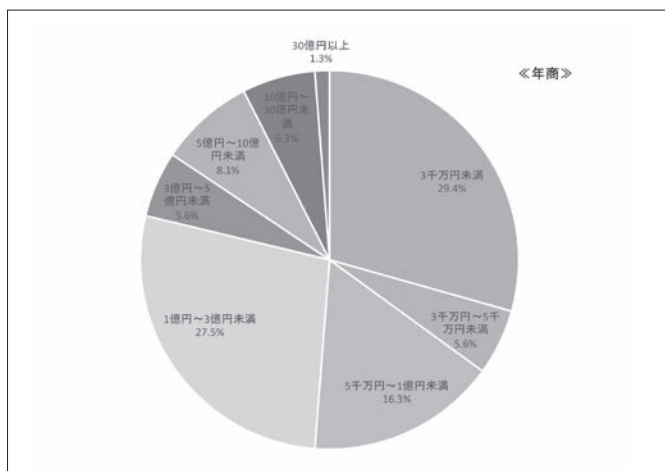
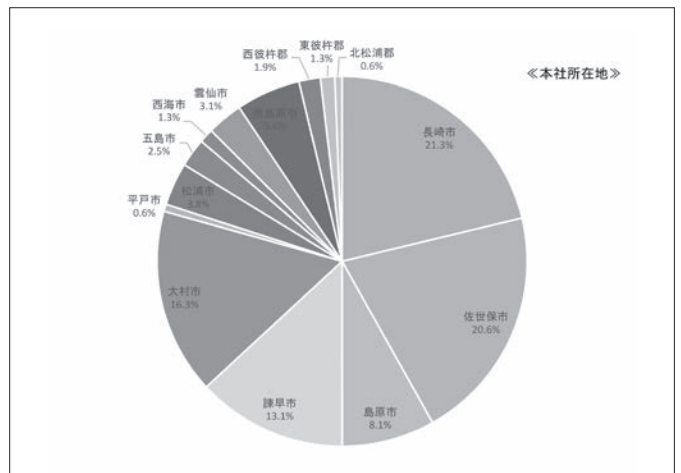
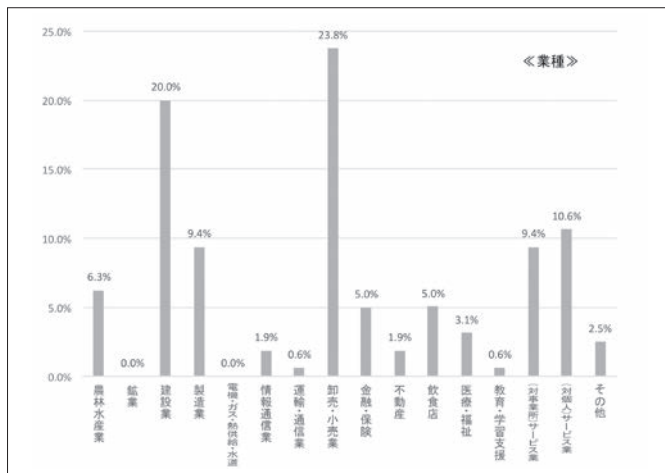
次期見通し…4.4

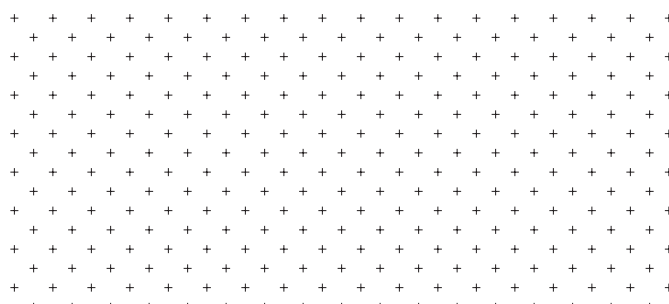
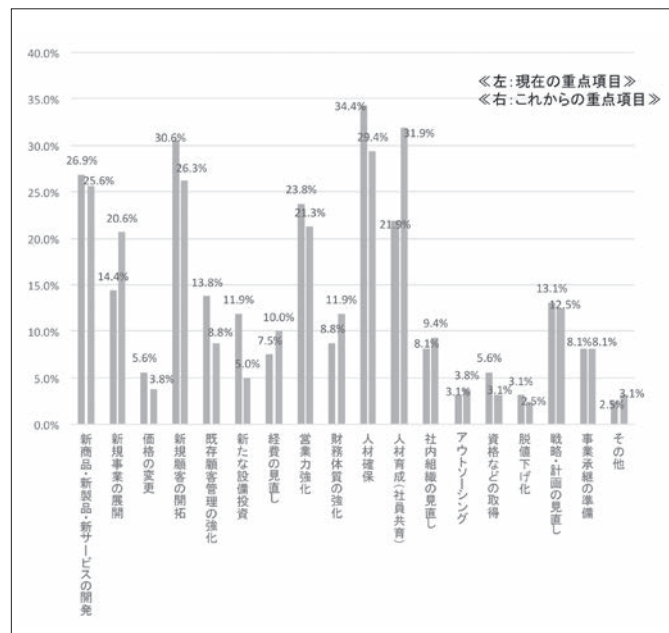
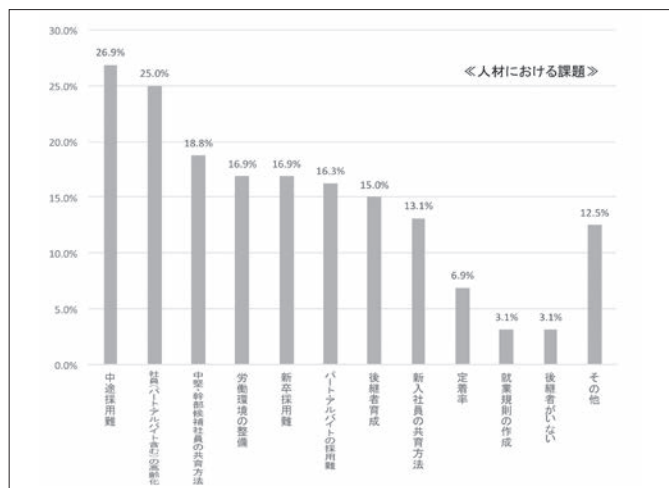
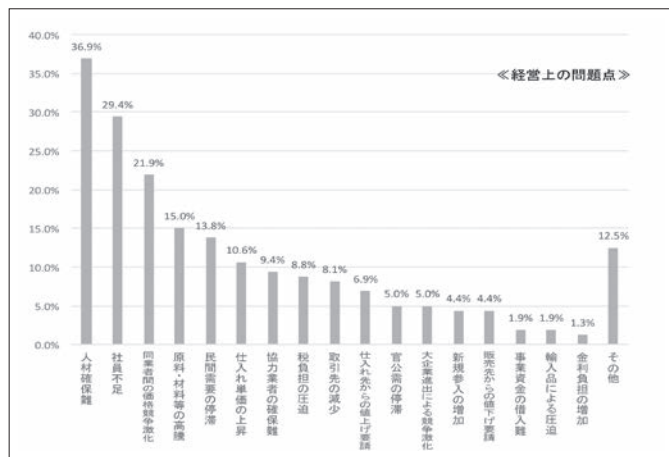
となり特に売上高に関しては二桁増という結果になりました。年末ということもあり、各業種において年末の需要が高まったのではないかと推測されます。

しかしながら「人材確保難」「社員不足」という経営上の問題点は根強く残り、中途での採用ができていないという傾向が見て取れます。

この人材に対する経営課題は景況調査開始後からの継続的な課題であり、同時に全国的な課題とも言えます。このような中、課題を解決するための次のアクションとしてダイバーシティ経営や業務の効率化等、経営業態の変化、進化の時代に移りつつあるのではないかと思います。景況調査からうかがえる傾向、分析を各専門委員会の活動や支部例会で取り上げていただくなどさらに提起型のデータとして蓄積し、企業経営の一助にしていければと思いますので引き続き回答へのご協力をよろしくお願いいたします。

（文責 事務局 峰 圭太）





＜景況感＞

	2017年7～9月期と比べて(直前3ヵ月との比較)			2016年10～12月期と比べて(昨年同時期との比較)			2017年1～3月期と比べて(次期見通し)		
売上高	増加	横ばい	減少	増加	横ばい	減少	増加	横ばい	減少
	31.3%	50.0%	18.8%	31.3%	47.5%	21.3%	28.8%	52.5%	18.8%
経常利益	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化
	23.1%	59.4%	17.5%	23.8%	55.0%	21.3%	24.4%	55.6%	20.0%
業況判断	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化	好転	横ばい	悪化
	20.0%	60.6%	19.4%	21.9%	58.1%	20.0%	21.9%	60.6%	17.5%

＜役員を含む正規社員数＞ 2,701 人

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
6	103	21	10	5
3.8%	64.4%	13.1%	6.3%	3.1%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
4	3	2	1	2
2.5%	1.9%	1.3%	0.6%	1.3%
90～99人	100～199人	200人～		
2	1	0		
1.3%	0.6%	0.0%		

＜派遣、契約社員を含む臨時・パート・アルバイト数＞ 1,240 人

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
51	80	10	7	7
31.9%	50.0%	6.3%	4.4%	4.4%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
0	0	0	0	2
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%
90～99人	100～199人	200人～		
1	2	0		
0.6%	1.3%	0.0%		

＜全社員数(正規+パート・アルバイト)＞ 3,311 人

0人	1～9人	10～19人	20～29人	30～39人
2	86	29	12	7
1.4%	61.9%	20.9%	8.6%	5.0%
40～49人	50～59人	60～69人	70～79人	80～89人
7	4	2	2	1
5.0%	2.9%	1.4%	1.4%	0.7%
90～99人	100～199人	200～299人	300人～	
3	4	0	1	
2.2%	2.9%	0.0%	0.7%	

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数／約 500 字

●画像／歓迎します

□掲載／情報広報委員会にて選考

□投稿先／情報広報委員または同友会事務局まで

□メール／jimu@nagasaki.doyu.jp



折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月 10 日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月 15 日～20 日に行います。支部指定も出来ます。

A 4 チラシ 1 枚 5 円です。**A 3 チラシは 2 枚分**となります。ご利用お待ちしております。

事務局企業訪問

今回の企業訪問は佐世保支部の（株）広告のアクセス山領 進さんにお話を伺いました。

＜（株）広告のアクセス＞

広告のアクセスは、1989年11月に（有）アクセスとして設立され、CM、web、印刷物、看板などの広告物を幅広く企画・制作されています。

設立前、山領さんは広告代理店に勤めていましたが、知人から誘われるかたちで退社し、アクセスの設立に参画しました。設立当時の所長はその知人の方が務め、山領さんともう一人社員がいましたが、2、3か月すると経営が行き詰まってしまい、3人で身銭を切ってなんとか凌ぎました。その後経営は軌道に乗り、社員も5人まで増えました。

ところが、1993年に会社内で分裂が起こり、社員3人がまとめて辞めてしまいます。そして1996年に所長が亡くなられ、山領さんが所長（兼専務）になりました。その後2010年9月に（有）アクセスから（株）広告のアクセスに移行。この間、山領さんは会社経営に必死に取り組んできました。

＜同友会への入会＞

「自分は他の社長と違って自分で会社を興そうとしたわけではなく、自分が引き受ける他ない状況だったため、仕方なく社長になった」と語る山領さん。当初は経営に対する知識もほとんどなかったそうです。

そして、2003年に同友会に入会。同友会では、一生付き合っていくような多くの方と出会い、そして「社長とは何たるか」ということを考え始め、同友会の活動に積極的に参加し、勉強しました。

その活動のなかで経営理念をつくることになるのですが、なんと山領さんは経営理念をつくる前に、先に経営計画発表会をすることを会の中で宣言してしまいます。そうすることで絶対につくらないといけない状況にあえて自分を追い込み、経営理念をつくる原動力としたそうです。そして2013年12月に開催された経営計画発表会で経営理念を発表しました。

【経営理念】

○基本理念

私たちは、お客様の事業発展に寄与し、そのパートナーとなり、私たち自身も共に成長していきます。

○経営継続の誓い

私たちは、いかなる時も成長するための努力を続けます。

○商品付加価値の創出

私たちは、価格以上の価値をお客様に提供します。



○常に胸に刻むこと

私たちは、感謝の気持ちを忘れません。

この経営理念は、山領さんが何のために仕事をしているのか、何を目指しているのか、日々の仕事の中で判断に迷った時にどうするかということを明確にするためにつくられたものです。また、「正しく」、「逃げるな」、「即行動」という行動基準もつくられ、日々の仕事に取り組んでいらっしゃいます。

＜今後＞

今後は「まいぶれ佐世保」という地域のポータルサイトの運営に力を入れていきたいと考えている山領さん。「まいぶれ」は、全国各地域にあり、地域のお店・イベント・行政・口コミなどのあらゆる情報を地元住民の方向けに発信しています。将来的には「まいぶれ」の認知度を上げて、観光客の方にも利用していただき、住民にとってなくてはならない情報媒体として地域に貢献していきたいと強く思っているそうです。

また、長年思っていることが「自社の広告枠をお客様に買ってもらう他社との価格競争のスタイル」から「お客様のニーズに合わせた広告提案を行うスタイル」に変えていきたいということでした。これは「価格以上の価値をお客様に提供する」という経営理念にも表れています。

この山領さんの強い思いがあれば、同友会理念である『国民や地域と共に歩む中小企業』として（株）広告のアクセスは今後ますます発展していくのではないかと感じました。

山領さんの同友会活動・本業ともにさらなるご発展を祈念いたします。今回はお忙しい中、ご対応いただきありがとうございます。

＜会社概要＞

（株）広告のアクセス

住所：〒857-1151 長崎県佐世保市日宇町2835

TEL：0956-34-2600 FAX：0956-34-2601

（文責 森川 健吾）

新入会員の皆さんです < 2月入会・復会 >

< 入 会 >



支 部 名	長崎浦上支部			
氏 名	はまもと よしふみ 浜本 義文			
企 業 名	浜本石油(株)			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒852-8137 長崎市若葉町2-28			
T E L	095-846-9191	F A X	095-846-5975	
業 種	ガソリンスタンド			
企 業 P R	昭和35年10月創業。地域のみな様の支持を得て半世紀以上ガソリンスタンドを生業として頑張ってきました。これからも地域に密着した経営戦略で顧客に愛される会社として存在価値を高めたいと思います。			
スポンサー	辻村 栄蔵			



支 部 名	長崎出島支部			
氏 名	くおん りゅうじ 久遠 龍史			
企 業 名	(株)ユニバーサルワーカーズ			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒850-0843 長崎市常盤町1-60			
T E L	095-895-9300	F A X	095-895-9550	
業 種	観光業			
企 業 P R	軍艦島観光船及び軍艦島デジタルミュージアムを運営している。			
スポンサー	岩崎 誠一			



支 部 名	島原支部			
氏 名	う えだ みつお 上田 三生			
企 業 名	(有)上田宝飾時計店			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒855-0045 島原市上の町908			
T E L	0957-62-3688	F A X	0957-62-3688	
業 種	時計・宝石・メガネ販売			
企 業 P R	WLD（ウィリアム・レニーダイヤモンド）をはじめ県内唯一のメガネや時計を多く取扱っております。			
スポンサー	池田 知謙			



支 部 名	佐世保支部			
氏 名	たけした せいじ 竹下 誠治			
企 業 名	(一社)みゆき会			
役 職 名	理事			
企 業 住 所	〒859-3223 佐世保市広田1丁目33-12			
T E L	0956-59-9775	F A X	0956-59-9776	
業 種	障がい者福祉サービス業			
スポンサー	綿川 淳子			



< 復 会 >



支 部 名	島原支部			
氏 名	しばさき たつや 柴崎 達泰			
企 業 名	(株)EB TEC			
役 職 名	代表取締役			
企 業 住 所	〒855-0843 島原市新山3丁目9020-17			
T E L	080-6439-6720	F	A	X
業 種	船舶塗装・配管溶接工事業			
スポンサー	横田 健			



3月理事会 議事録 抜粋

3月1日(木) 19:00～21:15
つくば倶楽部 出席25名 欠席9名

開会挨拶－松尾代表理事

いよいよ3月、年度末になりました。最近はいろいろなところから報告依頼の声がかかり、感謝しかありません。3月26日に山崎会員((有)山崎マーク)の40周年事業に参加し、記念講演は高田明氏で大変勉強になりました。一番印象に残ったのが、ミッション(自分は何のためにやっているのか)・パッション(熱意を持って取り組む)・アクション(行動して成果を出す)です。また、90分の講演の中で、山崎マークの社員さんが元気になるようなことを話をされていて、一方通行ではない講演が非常に印象深かったです。

仲間づくりについて

- 1)入会・復会(交代含む)・企業変更・退会・取下の承認について
21名の入会、6名の復会(復会交代含む)、1名の変更、2名の交代、5名の退会、1名の取り下げを承認

西山仲間づくり委員長総括－2月キャンペーン結果

会員数は伸びています。仲間づくりの意識が各支部に広がってきたと思います。来期に繋がる動きとして、リストやツール、長崎同友会の日(11/14)などの仲間づくりの基盤ができました。総会までに755名達成できるように各支部意気込んでいます。松尾代表理事には委員会に参加いただき、たくさんの力をいただきました。各支部の委員長が支部を巻き込んで活動していただきました。みなさんに支えていただくことで、来期の基盤づくりができたことをうれしく思います。

※2月キャンペーン結果は仲間づくり委員会で確認

(松尾代表理事より)

行き先々と同友会に入らないかと声をかけています。1度声をかけたからといって、次に会った時に声をかけないのは失礼です。ずっと声をかけ続ければ入っていただけます。周りにたくさんの経営者の方がいらっしゃると思いますのでご協力お願いします。

協議・承認事項

- 1)2018年度に向けて
○予算について
予算案及び三役会案を承認。県委員会参加時の補助については現状通り支部の裁量にて対応。

○第47回定時総会について

(前回までの決定事項)

4月19日(木)13:30～、諫早観光ホテル道具屋。参加費は総会のみは無料、懇親会参加の方は5,000円、記念講演を鹿児島同友会の上塘代表に依頼(今回確認分)

・支部参加目標

→参加目標、長崎浦上支部:20名、長崎出島支部:20名、大村支部:30名、諫早支部:40名、島原支部:30名、佐世保支部:50名、北松浦支部:10名、五島支部7名
合計:207名を確認

・総会式次第

→式次第案を承認。

総会の中で、退任役員、新任役員から一言ずつあいさつ

をいただく。懇親会の中で例会最多出席者表彰、全研告知、会員拡大表彰を行う。支部別アピールも行う

※記念講演タイトル…「私の黒船、それは経営指針～共同求人・共育を通して知った人を生かす経営～」

→上記を確認

○事務局員採用について

(進捗報告)

2月23日の三役会を受け、正局員として募集、8名の応募あり。随時面接を検討

○来期活動予定について

→理事会開催日の確認。1月15日に賀詞交歓会を開催することを承認。

2)第49回中小企業問題全国研究集会について

(実行委員会を受けて情報共有)

(峰事務局次長)

- ・空港から各分科会のバスはナビックに取りまとめて依頼する方向で進める
- ・物産展の会場をかもめ広場で行うことを検討
- ・井手支部長に、ピンバッジを作成いただいた。今後、発注を検討
- ・開催意義を検討。なぜ全研を開催するのかを様々な場面で確認し、一般会員にも伝え浸透するように取り組む
- ・シールを作成。各支部配布済。名刺に貼るなどして、全研のアピールを依頼

3)2018年賀詞交歓会の振り返り

(三役会案)

収支提案

→承認

4)企業変革支援プログラムの活用について

(理事会決議事項)

10月を理事、11月を支部役員、12月を一般会員の登録推奨月間とする

(今回確認)

今後支部役員の登録を推奨する

→上記を確認。新任予定の理事に企業変革支援プログラムの登録を依頼

5)議案書掲載用 ビジョン委員会定義について

(ビジョン委員会案)

- ・長崎同友会の現状を検証し、3年・5年・10年後の長崎同友会の在り方について検討しビジョンを作成する。
 - ・承認されたビジョンについては各委員会と意見交換を開始し、助言、サポート等の支援も行いながら実現を目指す。
 - ・ビジョンの実現のための戦略は定性的でなく定量的にまとめる。
- 上記を承認

6)議案書名刺広告募集について

→議案書名刺広告を募集することを承認

報告・連絡事項

1)2月 県本部・各委員会・各支部等の活動状況について【共育委員会】

(峰事務局次長より)3月24日(土)第3回新入社員フォローアップ研修と4月2日(月)合同入社式開催について報告

【ダイバーシティ委員長】
3月12日(月)例会について報告

- 2) 例会について(更なる例会の充実をめざして)－
(山口委員長欠席のため、田口事務局員より)
- ・2月例会の出欠状況と3月例会について各支部にヒアリング
 - ・返信率に関しては達成可能な目標ですので各支部取り組みをお願いします

- 3)中同協 主要行事の紹介
理事は年1回、支部役員は2年に1回は全国大会に参加しましょう！(申し合わせ事項)(敬称略)

2月8・9日(木・金)	第48回 中小企業問題全国研究集会／兵庫／キャラバン開始 登録53名(40名目標)
5月24・25日(木・金)	中同協役員研修会兼九州・沖縄ブロック支部長交流会／熊本
6月21・22日(木・金)	第21回 女性経営者全国交流会／埼玉(県南担当)／
7月5・6日(木・金)	第50回 中同協定時総会／宮城(理事会担当)／
9月13・14日(木・金)	第6回 人を生かす経営全国交流会／宮崎(県北担当)／
11月29・30日(木・金)	第46回 青年経営者全国交流会／沖縄(青経担当)／
2月21・22日(木・金)	第49回 中小企業問題全国研究集会／長崎

- 4)2月8・9日(木・金) 第48回全研参加報告(参加者より)
(安井次期青経会長)懇親会ではすごい気配りでした。駅から案内の方がいたり、次の日の物産展も素晴らしく整っていました。グループ長もとても研修をされており、1年前から準備したそうです。非常にスムーズなグループディスカッションでした。

(萩田次期支部長)お迎えからお見送りまでおもてなしをすごくしていただいたという印象。来年、長崎もおもてなしをしなければと感じました。

(山領次期副代表)兵庫は大きな会場を使って2,000名でしたが、長崎は多くの施設を使ってなんでもできるといようにとりくみたいです。

(宮田委員長)兵庫ではグループ長研修を1年前から準備をして、全研を学びのチャンスととらえていました。運営について協議することも大切ですが、会員のプラスになることも取り組むべきだと感じました。

- 5)2月8日(木)同一労働同一賃金ガイドライン案解説セミナー参加報告(森川事務局員)：e.doyu掲示板掲載

- 6)2月15日(木)中同協障害者問題委員会参加報告(中村支部長)
川崎市で委員会が開催され、川崎市長も参加されました。障がい者雇用についてとても意識が高い市長で、川崎市での事例を報告されました。障全交は2年に1回の開催ですが、その隙間で九州サミットをやろうという声もあがっています。

- 7)2月19日(月)長崎サミット傍聴参加報告(田口事務局員)
長崎新幹線、MICE、長崎大学 新学部の新設を中心に意見交換が行われました。

- 8)2月21・22日(木・金)中同協憲章・条例合同会議およびe.doyu 担当会議参加報告(峰事務局次長)
憲章・条例をどう地域に広げていくかと、6月のキックオフ集会について審議・討議が行われています。中小企業憲章が閣議決定された6月18日を中小企業の日にしてはどうかという話があがっていました。また、e.doyu 担当会議ではe.doyuの改修計画について検討されました。

- 9)2月23日(金)春闘共闘会議との意見交換会参加報告(参加者より)
(宮田委員長)年に1回の意見交換会に参加しました。労働組合といっても公務員の方が多かったです。非常に同友会のことや中小企業憲章について勉強されていました。

- 10)内規集について
内規集を確認。

- 11)3ヵ月会費滞納者について－なし

- 12)その他
○2018年度支部移動会員の確認
賀川会員(長崎浦上→出島)、大崎会員、山口憲男会員(長崎出島→浦上)、西尾会員(長崎出島→諫早)、島崎会員(大村→長崎浦上)、上ノ原会員(北松浦→佐世保)

※次回日程－4月理事会 4月10日(火)未定

会員動向

●企業住所等変更

山口 善也 会員 (長崎浦上支部)
新住所：〒852-8042 長崎市白鳥町7-33
新TEL 番号：095-842-1040 新FAX番号：095-842-1043

高瀬 善久 会員 (諫早支部)
新住所：〒854-0005 諫早市城見町19-25

松田 一成 会員 (諫早支部)
新会社名：N・M企画管理事務所 新住所：〒854-0063 諫早市貝津町2172
新TEL 番号：0957-26-8045 新FAX番号：0957-26-8045

山川 弘幸 会員 (佐世保支部)
新住所：〒857-0033 佐世保市城山町1-7 1F

会 員 数 (3月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	135	115	100	90	75	150	55	35	755
期首	110	87	79	72	61	124	44	25	602
現在	114	103	80	75	65	154	43	31	665

退会者 (敬称略)

会員名	会社名	支部名	入会年月
黒田 達也	(株)昭和堂	長崎浦上	2012年6月入会
大島 敏幸	(株)FORTE	長崎出島	2008年10月入会
出口 美智代	すなっく 灯とみ	大村	2011年1月入会
松本 由也	(株)ミラージュ	佐世保	2015年10月入会
内野 栄孝	内野水産(株)	北松浦	2014年11月入会

4月例会・支部総会案内

他支部の例会情報は、ホームページや e.doyu から閲覧・参加申込可能です。

●長崎浦上支部

日 時 4月25日(水) 18:00 ~
会 場 ホテルニュー長崎
内 容 支部総会

●長崎出島支部

日 時 4月25日(水) 18:00 ~ 19:00
会 場 ホテルニュー長崎
内 容 支部総会

出島支部総会終了後に、浦上支部と合同で懇親会。

●大村支部

日 時 4月26日(木) 18:30 ~ 21:15
会 場 長崎インターナショナルホテル
内 容 支部総会

支部総会において、県総会の決定事項の確認、2017年度決算、2018年度予算の確認。支部長、各委員長の活動方針の確認などを行う。その後、委員会別に集まり委員会ミーティングを開催、委員長の活動方針をうけて、方針の共有、役割分担などを話し合う。

●諫早支部

日 時 4月25日(水) 18:30 ~ 21:00
会 場 四季の蔵 食楽亭
内 容 支部総会

●島原支部

日 時 4月26日(木) 19:00 ~ 22:00
会 場 HOTEL シーサイド島原
内 容 支部総会

19日の県総会7日後の4月26日、島原支部の総会を開催いたします。この1年間の活動報告と2018年度の計画案を審議します。会として活気あふれる1年間、経営者として学びの多い1年間にする為に会員一人ひとりの意識を高く持つ事が大事です。みなさん100%出席で来期も共に学びましょう！

●佐世保支部

日 時 4月24日(火) 18:30 ~ 21:00
会 場 グランドファーストイン佐世保
内 容 支部総会

●北松浦支部

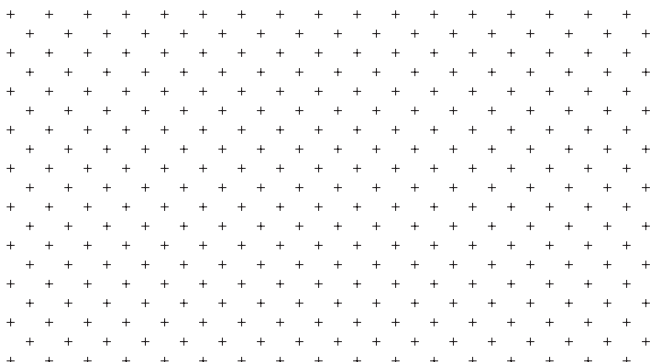
日 時 4月26日(木) 18:30 ~ 19:00
会 場 サンパーク吉井
内 容 支部総会

●五島支部

日 時 4月21日(土) 18:30 ~
会 場 観光ビル はたなか
内 容 支部総会

●青年経営者会

日 時 4月17日(火)
会 場 未定
内 容 未定



長崎全研

2019年は長崎にて中小企業問題全国研究集会が開催されます!!

2019年2月21・22日開催まで

あと

330

日!!

※3月12日現在